



## 協力と助け合い が ちから

## 心あつたかニュース

NMCAA  
NO3

新型コロナウイルスの自粛で社会が今までどおりになくなってきてきました。でも私達には、助け合う心と知恵があるそれが、この先の未来を作っていくのは？というニュースをお届けします。やフリーニュースコロナの先の社会へー日本の中からつながってほしい取り組み9つより)© deley は、食べて街のお店を応援しよう！」と題し、新型コロナウイルスの影響で予約や来店客が減少している飲食店をサポートしています。◎キッズシーズは支援サービス提供団体一覧の掲載を開始。学校給食の代替としての料理作り置きを割引価格で提供する「食事」や、昼食にも可能な限り対応し、入会金不要、1日単位で利用可能な「預かり」、学び」では、期間限定で学習コンテンツの無償配信を行うサービスなど、多様なコンテンツが掲載されています。◎東村山市料理飲食店組合(主催)と同市(後援)は、「美味しい」はコロナに負けない。」をキャッチコピーに、市内の飲食店と15万1,000人の市民をつなぐ「東村山エール飯をスタートしました。飲食店を助けたいのお店に行くことができ市民を

テイクアウトでつなげようと実現しました。◎大学教授の佐藤昌弘氏は、「ナビを止めるな！プロジェクト」を開始し教育系の民間団体、企業、塾、個人などの協力関係を作り出し、行政や自治体とも連携することが特徴です。具体的には、経産省の未来の教室「学びを止めない未来の教室」と連携し、プロジェクト賛同団体の取り組みを同ウェブサイトに紹介。地域・学校・教室単位での実証事業を民間企業等の協力の元で実施する予定です。

## 地球環境と人類

世界的な自粛によって、大気がきれいになってきている事実を知って、もうもとのよんだ空気に戻したくないと感じている方も多いと思います。国内で再生可能エネルギーの普及に尽力されてきたNPO法人「エコロジーオンライン」上岡裕理事長は、「人間が排出するCO2の約半分は、生活における電気の使用からきていることがわかってきている。つまりCO2の排出は、私たちが日常的に使う電気を化石燃料から再生可能エネルギーに切り替えさえすれば、かなりの部分が抑制できる。」また「ウイルスVS人類、未知なる敵と闘うために」で展開された話

国立環境研究所主席研究員、五箇公一先生は「人類は、本当に手を出してはいけないところまで自然に対して侵食してしまつた。この悪循環を絶つためには、そもそも究極的な「自然共生」、つまりライフスタイルの変換を今から始めないと、持続性が保たれない。それが今、このウイルスが私たちに教えてくれていることのような気がしています。」と語る。

やフリーニュース コロナ後の持続可能性、気候変動と再エネへ より)

## 編集後記

新型コロナウイルスで、変わる以外にもう方法がないところにいる私達ですが、どういう方向に行くのかを決めるも、私達なのだと思います。人との助け合いも自然共生も、全体みんなのためという心だと思いました。